

金沢医療センター 遠藤将光

7月15日に津幡南中学で「薬物乱用防止教室」の講師として話をさせていただきました。「薬物」にはタバコ、酒、麻薬・覚せい剤等の薬物が含まれ、当初全ての項目につき話して欲しいとのご要望でしたので、タバコ以外は十分な話ができない由をお伝えしたところ、タバコ主体でも結構ですとのお返事をいただき、少し気が楽になりお受けした次第です。

当日は体育館に一年生 201 名が床に座る形で先生方と参加してくれました。同中学では私の講演に先立ち各薬物に関してグループで調査し、その結果をミニ新聞にまとめてありました。また、当日喫煙・飲酒・薬物に関する生徒対象のアンケート調査結果も発表してくれました。それによれば喫煙経験者は 2 人だけでしたが、飲酒経験では約 1/4 の 50 人が「ある」と答えていました。性別での調査はありませんでしたのであくまでも推測ですが、男子生徒はかなり「飲んでる」と感じました。薬物では「使用したい」は 0 でしたが、「知識が無い」が約 1/4 でこのような教育の必要性を痛感しました。

私の話しはタバコに前半々分を費やし、その後アルコール、薬物に移りました。タバコについては煙に含まれるニコチン、タール、一酸化炭素などの主要な有害物質の作用と受動喫煙の問題から、若い女性？で溢れていましたから妊婦への影響も絡めてなるべく少ないスライドで説明し、最後はロールプレイで断り方を試してもらいました。酒はさらっと流して、薬物に少し時間を割きました。皆様もご記憶に新しいと思いますが、池袋での死亡事故を筆頭にその頃所謂「危険ドラッグ（旧、脱法ハーブ）」による事件が多発し、また有名歌手が覚せい剤で逮捕されたりと、薬物がメディアを騒がせていたからです。

先日生徒さんの感想文の一部を見せていただきました。自分の親がタバコを吸っているので危険な事を教えたい、周りの人や胎児にまでも影響がある、タバコも薬物も最初から手を出さない、などきちんと理解してくれている事が判りました。中には、父親が 3 年前にタバコをやめたが、これはすごく意思が強いことだとわかりありがたいと思った、という素晴らしい感想もありました。

津幡南中の生徒さんの理解が深いのは、前もって新聞を作るなど自分たちで薬物について調べた下地があったからだと思います。私は以前から成人しても記憶に残ってくれる授業を目指して来ましたが、成人式のアンケート調査からはまだその目的は達成されていないように思います。紙芝居的な一方通行の授業では印象は薄い、児童・生徒参加型が大事だと考えています。その一手段として禁煙ポスターなども有効でしょう。今後とも皆様と共に少しでも有効な喫煙防止教育を行って行ければと考えております。宜しく願い申し上げます。